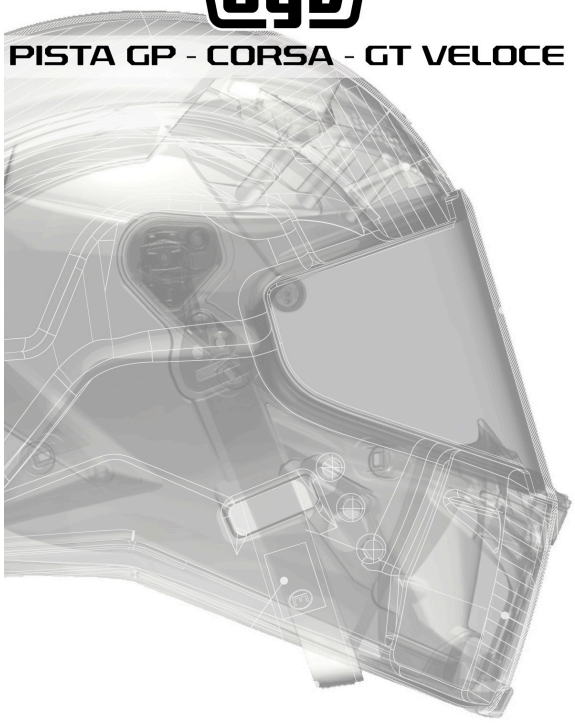
PISTA GP - CORSA - GT VELOCE



ＡＧＶ ヘルメット　日本総代理店
マルシン工業㈱
東京都葛飾区四つ木５－９－６
〒124-0011
Tel: 03-3693-5791
http://www.marushin-helmet.co.jp

日本語

取り扱い説明書

保存用

ご使用になる前に、この説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつでも利用できるよう、本書は身近な場所に保管して下さい。

SGマーク制度について

ヘルメットにつけられているＳＧマークは、万一ヘルメットに欠陥があり、製品安全協会の定めるSG基準に適合していないことが原因で、着用者がケガをした場合の身体的損害について賠償する被害者救済制度です。ただし、プロオートバイレースやサーカス等の特殊な使い方をしている場合，　あご紐を締めない等の誤った使用をしていた場合、SG基準が定めるヘルメットの性能を超える強い衝撃を受けた場合等の負傷などは賠償の対象となりません。

ＳＧマークに関するお問い合せ先は
一般財団法人　製品安全協会
〒110-0012 東京都台東区竜泉２－２０－２　ミサワホームズ三ノ輪　２階
TEL..03-5808-3303　FAX.03-5808-3305　http://www.sg-mark.org

AGV をお選びいただきありがとうございます。

ご購入いただいたヘルメットは、長年の営業の歴史の中でAGVが培ってきた豊富な実績と専門技術の結晶です。

当社のヘルメット設計/製造の歴史は1947年に始まります。レース環境という、最も厳しい環境下のテストにより、ユーザーの安全を最大限に守っています。そして、ジャコモ・アゴスティーニ、フランコ・ウンチーニ、ウェイン・レイニー、トロイ・コルサー、ロリス・カピロッシ、マックス・ビアッジ、バレンティーノ・ロッシなど、AGV を選んだ数々の有名レーサーがこれを証明しています。

入念な設計と素材の選択、ソリューション、革新的テクノロジーは常にAGV のDNAです。

しかし、レース競技における使用状況は、毎日ヘルメットを使用する日常的な場合とは大きく異なります。ＡＧＶはどのようなライディング状況でも安全でくつろげるヘルメットを求めて、快適レベルを最大限に追求しています。

ヘルメットの用途

AGV のヘルメットは、オートバイの使用において適切な保護を目的とする設計となっています。

⚠ 注意

AGV のヘルメットは、特に自動車レース、モーターボートレース、その他の特殊な用途には適していません。ヘルメットを適切に装着したからといって、走行時に装着することが義務付けられた装備、使用が推奨されるその他の保護装置は使用して下さい。また交通規則は通常どおりに守らなければいけません。

それぞれのヘルメットにそのモデルが仕向け国の法規に適合していることを示す承認タグが付いています。

承認タグは、ヘルメットのあごひも（ECE 22-05 を適用するヨーロッパおよび EU 外の一部の国々）またはヘルメットの外側に取り外せない状態で付けてあります（米国、アルゼンチン、オーストラリア、日本、その他の国々）。
承認タグはヘルメットから取り外さないでください。また、出所の不確かな承認タグは、偽造のタグである可能性が非常に高いため、ヘルメットに取り付けないでください。ヘルメットに偽造の承認タグを取り付けることは法律で禁じられています。ヘルメットに付いている承認タグの出所が怪しい場合は、お買い上げになった販売店ではなく、直接 AGV 社までお問合せください。

オートバイ用ヘルメットの種類

AGV のヘルメットは、次の 4 種類に分類されます:
オープンフェース形ヘルメットまたはジェットヘルメット: 通気性と使い心地に優れた市街地走行用のヘルメットですが、顎と顔面への衝撃への保護は保証されません。 シールド付きのものと付いていないものがあります。ECE 22-05 規格では、承認タグのコード番号の横に「J」の文字があることでこのモデルが識別できます。
フルフェース形ヘルメット: 顎への衝撃から保護できる設計のヘルメットです。このタイプのヘルメットのうち、特にオフロード用ヘルメットは、オフロード走行での使用が想定されたモデルです。ECE 22-05 規格では、承認タグのコード番号の横に「P」の文字があることでこのモデルが識別できます。
保護力のないフルフェース形ヘルメット: 顎への衝撃からの保護は想定されていない設計のヘルメットです。ECE 22-05 規格では、承認タグのコード番号の横に「NP」の文字があることでこのモデルが識別できます。
システムヘルメットまたはモジュラーヘルメット: 開閉式のチンガードのあるタイプで、ECE 22-05 規格では、承認タグのコード番号の横に「P/J」のモデル識別文字が付いている場合に限り、道路走行時にチンガードを上げた状態で使用することができます。モデル識別文字が「P」だけの場合は、チンガードを上げた状態で使用できる設計にはなっておりません。その場合、ヘルメットの装着をしやすくする目的に限り、チンガードを持ち上げることができます。いずれの場合にも、走行中にチンガードの上げ下げ操作を行ってはいけません。走行中にこのような操作を行うと、ハンドルから手を外すことになる他、チンガードで瞬間的に視野がふさがるため、大変危険です。

Fig.1 参照 _ ECE 22-05 規格による承認タグの例
E3: ヘルメットが承認されている国のコード
052644/P: 承認モデルの識別番号とヘルメットによって保証される保護のタイプ
000012: ヘルメットの製造番号

⚠注意：標準仕様でシールド付きヘルメット（ジェット形、フルフェース型、システム型のいずれも）では、運転時に目に入ると危険な粉塵、破片、虫などからシールドが目を保護します。シールドを取り外して走行することは、現行の法規上認められてはいますが、運転時の安全性が低下します。

正しいヘルメットの選び方

⚠ **注意：最大の頭部保護のため、ヘルメットは正しいサイズでかぶり心地のよいものを選ぶ事が大切です。従って、サイズの小さすぎるものは選ばないでください。頭や顔が痛くなるので長時間の着用に耐えられません。またサイズが大き過ぎてもよくありません。衝撃を受けたときに十分な保護機能を発揮できなかったり、運転中に横にずれて視界をさえぎったり、脱げることがあります。ヘルメットをご購入の際には、次の指示に忠実に従ってください。**

Fig.2 参照 _正しいヘルメットのサイズを選ぶには、眉と耳の約２センチ上の位置で頭回りのサイズを巻尺で測るところから始めます。

Fig.3 参照 _ヘルメットのサイズを選んだら、次はそれが正しく頭に合い、かぶり心地がよいかヘルメットをかぶって確認してください。あご紐を図のように左右に引っ張り、開口部を広げて、頭を後頭部から滑り込ませてヘルメットをかぶります。

Fig.3 a – 3 b 参照 _最大の視界を確保するため、このヘルメットの開口部は、通常のものよりもかなり広めになっています。そのためヘルメットを被ったら、目の高さまで下げずに、チークパッドとノーズガードがそれぞれ頬と鼻に合うような位置に装着してください。

Fig. 4 参照 _このとき、すべての内装パッド（チークパッド、頭頂部、額のパッド）が頬、頭頂部、前頭部に密着していることを確認してください。頭を動かさずに、ヘルメットを左右に少しゆすってみてください。次に図のように上下、前後に動かしてみてください 。

Fig.5 参照 _頬や前頭部の肌が引っ張られるようならヘルメットは正しく密着しています。従って、頭を動かさなくても簡単に回るヘルメットは、サイズが大きすぎるので小さいサイズを選んでください。最後に、痛みが出ない程度にできるだけきつくあご紐を締めます。前屈みに頭を下げ、後から前にヘルメットを引っ張って外れるか確認してください。ヘルメットが簡単に脱げるようであれば、それは頭のサイズに合っていない証拠です。 ちょうどよいサイズに思えたら、数分間ヘルメットを着用していて痛くなったり、圧迫されるところがないか確認します。よく分からないときは、最もかぶり心地が良いヘルメットが見つかるまで上の手順を繰り返してください。サイズの異なる ２つのヘルメットでどちらもかぶり心地が良くて決めかねる場合は、常にサイズの小さい方を選んでください。

ヘルメットの使い方及びお手入れの仕方

⚠ **注意**

想定される限りのあらゆる衝撃から頭部を保護できるヘルメットはありません。

保護機能を最大限発揮できるよう、頭に合ったヘルメットを着用し、あご紐を確実に締めてください。ヘルメットがかぶり心地の良い状態で、同時にしっかりと固定されるようにあご紐で調節した上で、ヘルメット後頭部に両手を当て前方に回転させるように力を入れてみてください。ヘルメットが前方へ簡単に回転する場合は、サイズが大きすぎます。頭のサイズに合ったヘルメットの再選択やあご紐の調節などで適正な着用状態が得られるようにしてください。あご紐はあごの下を通して、ヘルメットを着用した状態でピンと張るようにしっかりと締めてください。ヘルメットは頭にしっかりと締め付ける必要があります。このヘルメットでは、チンカップは使用しないでください。

ヘルメットメーカー推奨製品以外の付属品をヘルメットに装着しないでください。シェルに穴を開けたり、切ったりしないでください。このヘルメットの能力をいつも最大限発揮できるよう、ヘルメットの構造やパーツを改造しないでください。ヘルメットを塗装したり、粘着ステッカーや転写を貼り付けたり、アルコールを含む

クリーナーや溶剤を使用すると、ヘルメットの保護能力が大幅に低下します。お手入れにシンナーなどの溶剤、ガソリンやベンゼン、塩水や熱湯は決して使わないでください。

このヘルメットはシェルとライナーを部分的に破壊させて衝撃を吸収します。しかし、その損傷は見た目ではわかりません。従って、一度でも衝撃を受けたヘルメットは、ヘルメットに目に見える外傷がなくとも交換してください。

シェルとライナーはヘルメットの衝撃吸収を構成する重要な要素です。

ヘルメットの使用寿命には限りがあります。着用感の変化、ひび、汚れ、ほころびなど、明らかな摩耗の兆候が見られたら、交換してください。

いずれにしても、ヘルメットは購入後　３年で買い換えてください。

通常、ヘルメットは、通信装置を使用するようにはできていません。ヘルメットで通信装置が使用できるかどうかについては、各ヘルメットのオーナーズ マニュアルを参照してください。

オフロード タイプに限り、ヘルメットはゴーグル使用に適した作りになっています。

一部のヘルメットのモデルには、標準装備の透明シールドのほかに、サンシェード効果のあるインナーシールドの備わったものがあります。このようなシールドは、夜間、トンネル内、その他視界の悪い時など、適切な視界の得られない条件下で使用しないでください。

運転中に通信機器を操作したり、ヘルメットの部品（バイザー、サンシールド、チンガード）を動かすために決してハンドルから手を離したりしてはいけません。ヘルメットに対する操作は、必ず車両が止まっているときに行ってください。

ヘルメットのバイザーが AS 1609 規格で定められた要件を満たしていることを確認してください（オーストラリア向け）。

保持装置

あごひもはＤリングとマイクロメトリックファスナーの２タイプあります。
以下は、これら 2 種類の使い方についての説明です。

Fig. 6 参照 Ｄ リング固定システム

ヘルメットを固定するには、図に示すように、2 つのリングの間にベルトを通し(6.1)、ベルトの端を顎が締め付けられるまで引き(6.2) 、スナップを留めます(6.3)。ヘルメットが頭にしっかりと固定しているか確認してください（「正しいヘルメットの選び方」の項も参照してください)。

ヘルメットを脱ぐときは、まずスナップを外し、ベルトの端を引いて緩め、赤いつまみを使ってリングから抜きます。

Fig. 7 参照 マイクロメトリック固定システム

マイクロメトリック固定システムは、固定する前にベルトの長さの調節が必要です。図に示すように、あらかじめリングの部分でベルトの長さを加減し（7.1）、ヘルメットをかぶった時にベルトがちょうど良い長さになるように調節しておきます。ヘルメットを締めるには、ぎざぎざのあるベルトをバックル(7.2）へ差し込み、ベルトが顎に押しつけられるようになるまで押します（7.3）。マイクロメトリック固定システムでは、いったんヘルメットを装着してから、ぎざぎざのある部分でずらしながら、ぴったりの付け心地になるまでベルトの長さを細かく調整することができます（いずれにせよ、できるだけバックルの奥までベルトを差し込むことが推奨されます）。ヘルメットが頭にしっかりと被さった状態になっているか確かめます(「正しいヘルメットの選び方」の項も参照してください)。

ヘルメットを脱ぐには、布テープを持って赤いレバーを持ち上げ(7.4)、バックルから外します。

Fig.8 参照 _備考：メカニズムのプレススタッドとベルクロは留め具ではなく、ストラップが外れ落ちるのを防止するだけです。ストラップを固定するための代用品として使用しないでください。

⚠ **注意 – *運転を始める前に***

必ずヘルメットを適切にかぶり、あごひもを締めて下さい。あごひもの下にマフラーを巻いたり、ヘルメットの下に帽子を被ったりすることは厳禁です。ヘルメットを被ったりベルト等を調節したりするのは、車両が止まった状態で行ってください。定期的にヘルメットと摩耗部品（スクリュー、各種機構、スナップ、プラスチック部品など）の状態を確認してください。
特に、次のことを念入りに点検してください：
- ヘルメットの表面に亀裂がないこと
-あごひもが良好な状態で、保持装置が正しく機能すること
-内装およびヘルメットを固定するボタン（スナップ）/各種システムが良好な状態であること
-シールドに傷がなく、クリアーな視野が得られること
-シールドの機構が正常に機能すること
ヘルメット（フルフェースタイプの場合は特に）をかぶっていると、身の回りの音が聞こえにくくなることを考慮してください。ホーンや非常サイレンなどの音が聞こえるかどうかを確認し、外部状況の知覚能力にどの程度の影響があるかを正確に判断してください。運転中の突然の天候の変化および、それがヘルメットの性能へ影響する可能性があること（急激な温度の低下や雨でシールドが曇ったり、トンネル内走行時に視界が悪化したりすることなど）を考慮し、それに備えておいてください。

ヘルメットのお手入れ

Fig.9 参照 _ ヘルメットの安全機能が損なわれることのないよう、ヘルメットはいつも丁寧に取り扱ってください。ヘルメットのシェルとライナーは、専用の汎用 AGV クリーナーでクリーニングしてください。または中性洗剤を５～６滴たらした１リットルのぬるま湯に柔らかい布を浸し、それで汚れを拭き取ります。次に水に濡らした柔らかい布で拭き取ってください。
取り外し可能な内装は、手洗いや洗濯機で洗うことができます。洗うときはぬるま湯（35° C まで）と中性洗剤を使用してください。内装は乾燥機を使わず、日陰で自然乾燥させてください。かびや異臭が付くのを防ぐため、内装は完全に乾いてからヘルメットに装着してください

Fig.10 参照 _ヘルメットのお手入れには、ガソリン、ベンセンその他の化学製品やシンナーなどの溶剤は決して使用しないでください。その機能や構造が損なわれて、保護機能が低下するパーツがあります。同じ理由でヘルメットは決して塗装しないでください。塗料の溶剤でヘルメットの素材が傷みます。 ヘルメットは改造しないでください。(シェルに穴を開けたり、削ったりすること、ライナーをつぶしたり削ったりすること、あご紐の加工など) 構造強度が低下し、保護機能が損なわれます。パーツの交換時は、オリジナル AGV パーツを使用してください。交換方法がよく分からないときは、AGV ディーラーに問い合わせてください。

Fig.11 参照 _以下のようなヘルメットの性能を損なうおそれのある行為や使用方法は避けてください。:

-ヘルメットをオートバイのヘルメットホルダーや盗難防止装置にぶらさげたままで、走行しないでください。ヘルメットがぶつかったり、ひっかき傷ができます。

-ヘルメットをバックミラーなどの角ばった物に引っ掛けないでください。ライナーが傷みます。

-ヘルメットに腰掛けたり、地面に直接置いたりしないでください。

-ヘルメットはガソリンタンクやシートの上に置かないでください。簡単に地面に落ちて破損するおそれがあります。同様にヘルメットは子供やペットの近くに置かないでください。

-あごひもなどのヘルメット内部の構造パーツは取り外さないでください。

-ヘルメットは直射日光の当たる場所や、ヒーターの近くなど５０°Cを超える場所に放置しないでください。

注意：蛍光色は非常にデリケートで光が当たると変色することがあります。蛍光色に関しては、AGV 社では長期にわたる品質を保証は行っておりません。

シールドとプラスチックパーツのお手入れ

⚠注意：十分な視界を保つため、シールドはいつも良好な状態に保ってください。ひっかき傷ができたり、破損したシールドや、クリーニングしてもきれいにならないシールドはすみやかに交換してください。シールドに傷が付いていると、特に雨天や夜間の走行時に交差点で対向車のヘッドライトが当たったときに、視界が著しく悪化することがあります(**Fig.**12 参照)。シールドを上げた状態で使用するとシールドのロック機構の部品が視野の妨げとなりますので、御注意ください。

シールドは汚れが十分に落ちるよう、ヘルメットから取り外して専用の汎用 AGV クリーナーでクリーニングしてください。または水で薄めた中性洗剤で洗い、流水ですすいだあと柔らかい布で拭き取ります。シールドとヘルメットは使用後すぐにクリーニングすると、汚れも簡単に落ちて効果的です。

- ガソリン、ベンジン、ガラス クリーナー、その他化学製品やシンナーなどの溶剤は決して使用しないでください。シールドの品質が劣化するおそれがあります。
- ドライヤーやヒーターでシールドを乾かさないでください。
- 刃物や尖ったものでシールドの汚れを取らないでください。 シールドに傷が付きます。
- ステッカーや粘着テープを貼らないでください。

ベンチレーションパーツやシールド取り付け機構などのヘルメットのプラスチック パーツは、上記の内容に従ってクリーニングしてください。布でとれないちり、ほこり、虫は、コンプレッ

サーで取り除いてください。　またこの作業をするときはヘルメット内部が汚れるのを防ぐため、内装は取り外すか、新聞などでカバーしてください。

シールドの機構

シールドの材質は傷の付きにくいポリカーボネート製で、回転機構が備わっているため、シールドを上げるとヘルメットから離れ、下げてヘルメットに密閉できる仕組みになっています。
このメカニズムには 3 段階のポジションがあります: 一番下に下げたポジションでは、シールドがチンガード部分にロックする機構が付いております。このポジションは走行時向きで、高速走行時には最適です。低速走行時に少し通気性が必要な場合は、やや開いたポジションにできます。
シールドを完全に上げた全開ポジションは、車両が止まっている時、ヘルメットの装着と調節を行う時のみに使用するポジションです。
シールドのロック機構は、走行中にシールドを確実に密閉するだけでなく、転倒時にも異物がユーザーの頭に接触しないようシールドを開きにくくします。
シールドを下げると、自動的にロックされます。開くときは、2 段階の動作を行います：
1 -ボタンを押してシールドを上へ押し上げます (**Fig.**13)。シールドがやや開いたポジションでロックされます。
2 –さらにボタンを押してシールドを上へ向けて押し上げると (**Fig.**14)、シールドのロックが完全に外れて全開ポジションまで上げられるようになります(**Fig.**15)。

⚠ 注意：以下の作業は、ヘルメットを平らな場所に置いて行って下さい。

シールドの取り外し

シールドを取り外すには、シールドを全開ポジションにします。(**Fig.**15)。
さらにヘルメットの左右いずれかのロックレバーを下へ引きます(**Fig.**16)、シールドを帽体から離します(図 17)。
もう一方でも同じ作業を行い、シールドを取り外します。

シールドの取り付け

シールド全開にした状態で(**Fig.**15)左右いずれかのロックレバーを下へ引き、ヘルメットに固定された長方形のベースにシールドを差し込みます(**Fig.**18)。その後で、ロックレバーを戻します。(**Fig.**16)　もう一方でも同じ作業を行います。シールドを何度か開閉してみて、適切にヒンジが回転することと、ロック機構とやや開いたポジションで正常に作動するかどうか確かめます(**Fig.**13、14、15)。

PINLOCK® 曇り止めレンズおよびティアオフフィルム

シールドのアクセサリーとして、Pinlock ®ブランドの曇り止めレンズとティアオフフィルムが用意されています。Pinlock ® 曇り止めレンズには、シールドが曇らないよう湿気を吸収する素材が使われています。Pinlock ®曇り止めレンズは、シールドの内形状に適応しますので、取り付けた時に、密封された空間を形成し、曇り易い状況でも優れた視野が確保できます。
一方、外側のティアオフフィルムを剥がすことにより、常に汚れのない均一な視野が確保でき、あらゆる条件下で安全で優れた視界が得られます。

PINLOCK®曇り止めレンズの取り付け

ヘルメットからシールドを取り外します。取り付け前にシールド内側の汚れを綺麗にクリーニングして下さい。シリコン製のパッキンをシールドの内側へ向けて Pinlock® 曇り止めレンズを当てます。レンズの左側にある切り込みをシールドの左側のピンに差し込みます(**Fig.**19)。さらに、レ

ンスをやや曲げて(**Fig.**20)、右側の切り込みをシールドの右側のピンに差し込みます(**Fig.**21)。
Pinlock® 曇り止めレンズのシリコン製パッキンがヘルメットのシールドの周囲全体にぴったりと密着しているか確認します(**Fig.**22)。
Pinlock® 曇り止めレンズの保護フィルムを剥がし、バイザーをヘルメットに取り付けます。
⚠ 注意： Pinlock®曇り止めレンズを取り扱う際には、表面に傷を付けたり擦ったりしないよう細心の注意を払ってください。

PINLOCK®曇り止めレンズの取り外しとお手入れ

レンズを取り外すには、作業 (**Fig.**20 および **Fig.**19) を逆の順で行ってください。
Pinlock® 曇り止めレンズのお手入れには、デリケートな液体石鹸、温水、湿った柔らかな布をお使いください。1 日以上おいて完全に乾かしてからヘルメットに取り付けてください。
⚠ 注意：研磨剤入りのクリーナーやアンモニアやアルコールを含む液状クリーナーはご使用にならないでください。

ティアオフフィルムの付け方

ティアオフフィルムは、走行中に付着する汚れからシールドを保護するためのもので、必要に応じてフィルムを剥がすだけで簡単にシールドの汚れが取れます。

⚠ 注意：シールドにティアオフフィルムを貼る前に、表面の保護フィルムを剥がしたことを確認してください。

ティアオフフィルムを貼る前に、フックを回して、フック同士を近づけてください。それから剥がすときの為のつまみをヘルメットのお好きな方へ向けて、フィルムをフック(**Fig.**23) に掛けます。つまみを持ちやすいよう、外側へ向けてわずかにフィルムを折り曲げて、その部分だけヘルメットに完全に密着しないようにすることもできます。その後で、固定用フックを回して(**Fig.**24) 、フィルムのテンションを上げ、シールドに密着させます。最後にお好みに応じて、剥がす時のつまみをお好きな方へ向けてもう一枚ティアオフフィルムを上に貼ります。

ノーズガードの取り外し/取り付け

ノーズガードを上へ引いて取り外します(**Fig.**25)。
ノーズガードを取り付けるには、フックの歯を所定の位置に差し込んで、カチッと音がするまで押します。

ウィンドガードの取り外し

帽体とチンガードの間にあるウィンドガードを抜き出します(**Fig.**26)。
取り付ける時は、上記と同じことを逆の順で行います。

チークパッドとネックガードの取り外し

チークパッドの前側を持ち、下側にある 3 つのホックを外します(図 27)。
長方形の穴を通じてあごひもから外し、チークパッドの下端をヘルメットの外側へ向けて引き、帽体と発泡スチロールの間に入っている部分を引き出します(**Fig.**28)。

取り付ける時は、上記と同じことを逆の順で行います。**必ずホックをすべて外してから引き抜いてください。完全に外さない状態で引き抜くと、ホックや内装生地が壊れることがあります。**

チークパッドの調節（Corsa および GT Veloce のみ）

快適な状態で使用できるよう、耳と接触する部分のチークパッドの詰め物を挿入したり取り外したりして調節することができます。
耳の部分がきつく感じられる場合は、チークパッドを取り外してから、外側の下にある開口部（**Fig.29**）からスポンジ製のチップ（**Fig.30**）を取り出します。取り外した後で元の状態に戻したい場合は、チップを再び取り付けることができます。チークパッドを付け直すには、前項をご参照ください。

内装本体の取り外し

チークパッドを取り外した後で、帽体とポリスチロールの間に入っている内装本体の後部を引き出し(**Fig.31**)、前側の左右にある **2** 個のホックを外します(**Fig.32**)。これで内装本体が完全に取り外せるようになります。
備考:必ずホックをすべて外してから引き抜いてください。完全に外さない状態で引き抜くと、ホックや内装生地が壊れることがあります。
取り付ける時は、上記と同じことを逆の順で行います。

内装本体の調節

ヘルメットに取り付けられている内装本体は、ユーザーの頭になるべくうまくフィットするよう調節することができます。
内装本体を調節するには、まずヘルメットから内装本体を取り外さなければいけません（「内装本体の取り外し」の章参照）。
内装本体には **3** 通りの調節を行うことができます：
1-頭のてっぺんにしっかりフィットしていない場合は、**2** 本のバンドを中央へ寄せます。その逆の場合は、専用のマジックテープを使ってバンドを左右へ移動させます(**Fig.33**)。ヘルメットが頬骨に対して高すぎる位置になっている場合は、**2** 本のバンドを遠ざけます（**Fig.33-A**）。ヘルメットの位置が頬骨に対して低すぎる場合は、**2** 本のバンドを近づけます（**Fig.33-B**）。
2 本のバンドを調節することにより、ヘルメットの装着位置の高さを調節することができます（**Fig.34**）。
備考: **2** 本のバンドが同じ位置になっていて、内装本体の他の部分に重なっていないことを確認してください。
2- 首のところをきつくしたい場合、または額と頬の部分をきつくしたい場合は、内装本体後部にあるポケットに半円形のスポンジ（ヘルメットに同梱されています）を入れます**(Fig.35)**。
3- キャップにはスポンジ製のチップが **4** 個入っており、これらを使って頭との隙間を調節することができます **(Fig.35** の **1**、**2**、**3**、**4)**。アクセサリーとして通常のタイプよりも厚いチップが用意されており、厚いタイプのチップと取り換えることもできます。
備考: スポンジ製のチップは左右の厚さが異なっており、厚い方を頭の方へ向けて取り付けます。

汗吸収バンド

気象状況によっては、汗が垂れて目に入らないよう、汗吸収バンド（Pista GP では標準装備）を取り付けることにより、バラクラ帽を使用せずにヘルメットを着用することができます。汗吸収バンドは、チークパッドの上部にある **2** つの穴にボタンで固定し（図 **36**）、ヘルメットを装着した後で額での高さを調節します（**Fig.37**）。

⚠ 注意
汗吸収バンドがチークパッドのボタンにしっかりと固定されており、視野を遮ることのないよう、額の高い部分に取り付けられていることを確認してください。

内装の洗濯

内装は取り外した状態で温水と洗濯石鹸を使って手洗いで洗うことができます。

洗った後は流水ですすいでください。
絞らずに直射日光を避けて室温で乾かしてください。

チンガードのベンチレーションの開閉
このヘルメットには、チンガードにベンチレーションが備わっており、チンガードの内側にベンチレーション作動のレバーがあります。(**Fig.**38)。レバーを上へ押すと、ベンチレーションが閉まり(**Fig.**39)、レバーを下げるとベンチレーションが開きます(**Fig.**40)。
レバーを途中で放して、半開きにすることもできます。

フロントベンチレーションの開閉
このヘルメットには、シールドの上の額の部分に 3 箇所ベンチレーションがあります。
Pista GP モデルでは、プラグプレートを脱着することによりベンチレーションを開閉します。
サイドプラグプレートを取り外すには、つまみを持って矢印の方向へ引きます(**Fig.**41)。サイドプラグプレートを取り付けるには(**Fig.**42)、**まず小さい方の先端を金属フレームの中へ通してから、プラグプレートを曲げて反対側の先端を差し込み、プラグプレートが完全に入るまで、中央へ押しやります。**
センタープラグプレートを取り外すには、つまみを持って矢印の方向へ引きます(**Fig.**43)。
センタープラグプレートを取り付けるには(図 44)、まず金属フレームの中へ通してから、プラグプレートを曲げて反対側の先端を差し込み、プラグプレートが完全に入るまで、中央へ押しやります。
Corsa および **GT Veloce** モデルのヘルメットでは、開閉メカニズムでベンチレーションを開閉します。ベンチレーションを開くには、カーソルを上へ押します(**Fig.**45)。エアインテークを閉めるには、カーソルを下へ押します(**Fig.**46)。

エアーエキゾースト
ヘルメットの後部に、常に開いた状態の 2 箇所のエアーエキゾーストがあります。ヘルメット内部の空気を引き出す機能があり、その形状と位置により、走行速度に従って引き出す空気の量が変わります。

スポイラーの脱着
ヘルメットには、スポイラーが 1 つあり、空力抵抗を抑えて安定性を高めて、ヘルメットの空力性能を向上します。スポイラーを取り外すには、ヘルメットへ固定する 3 つのスクリュー（2 本はサイド部、1 本は中央部）を外して下さい。
取り付けるときは（**Fig.**47）、スポイラーをヘルメット上に配置し 3 本のスクリューで固定します。

耳栓
アクセサリーとして耳栓が用意されており（Pista GP では標準装備）、ノイズの激しい車両を運転するときにも快適性を保証し、集中力を妨げません。
⚠ **注意**
耳栓は、サーキット走行時のみに使用してください。公道での使用は出来ません。

部品リスト
Pista GP _ **Fig.*48*** ***Corsa _*** **Fig. *49*** ***Gt Veloce _*** **Fig. *50***

1. シールド
2. フロント中央ベンチレーション
3. フロントサイドベンチレーション
4. シールド機構
5. ティアオフフィルム / PINLOCK® のフック
6. スポイラー
7. 縁ｺﾞﾑ
8. チンガードのベンチレーション
9. シールド開閉ボタン
10. ノーズガード
11. ウィンドガード
12. あごひも
13. 内装本体
14. チークパッド及びネックロール
15. エアーエキゾースト
16. 汗吸収バンド

Fig. 1

Fig. 2

Fig. 3

Fig. 3a

Fig. 3b

Fig. 4

Fig. 5

Fig. 6

Fig. 7

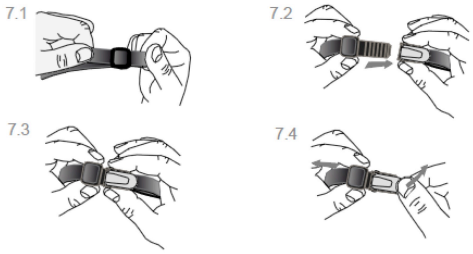


Fig. 8

Fig. 9

Fig. 10

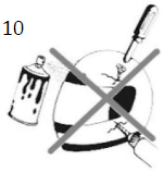


Fig. 11

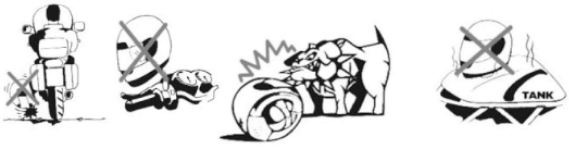


Fig. 12

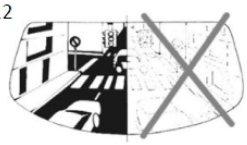


Fig. 13

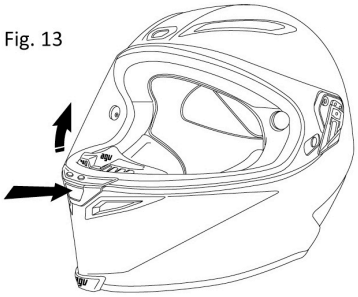


Fig. 14

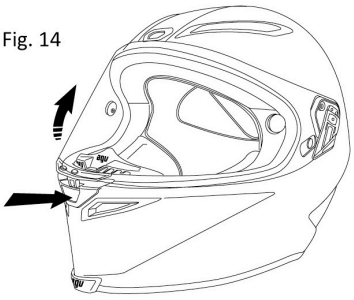


Fig. 15

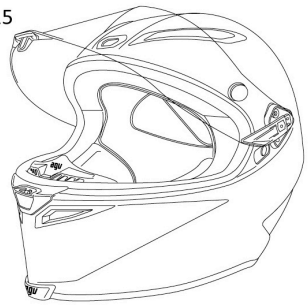


Fig. 16

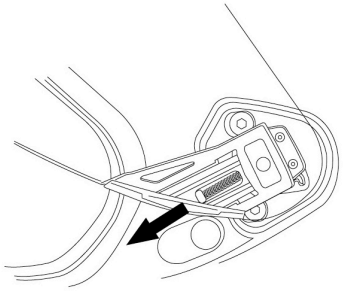


Fig. 17

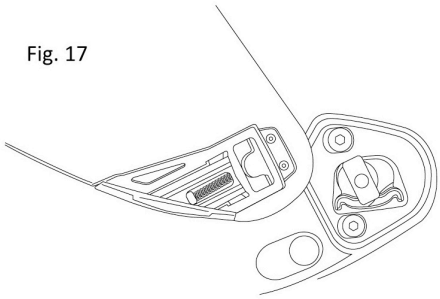


Fig. 18

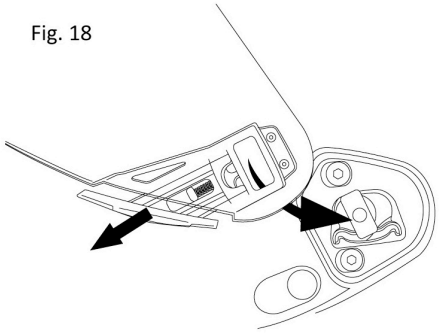


Fig. 19

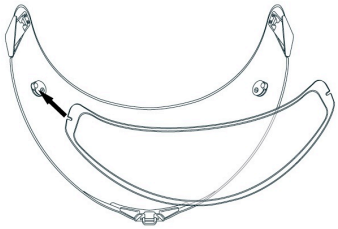


Fig. 20

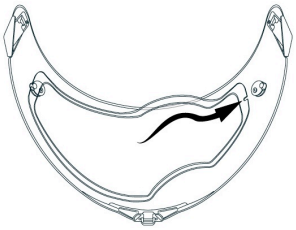


Fig. 21

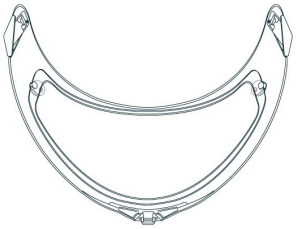


Fig. 22

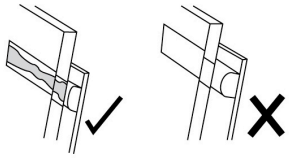


Fig. 23

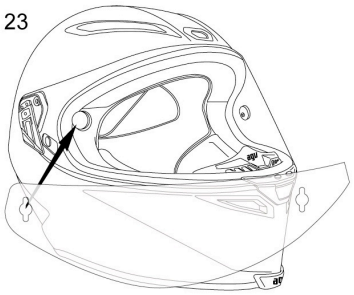


Fig. 24

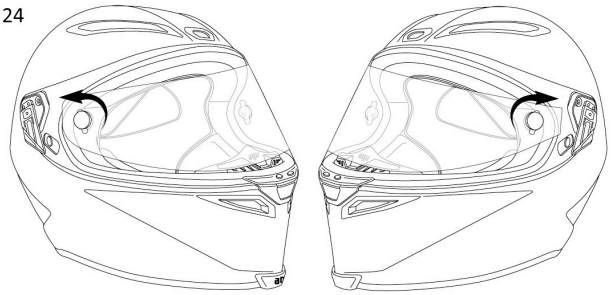


Fig. 25

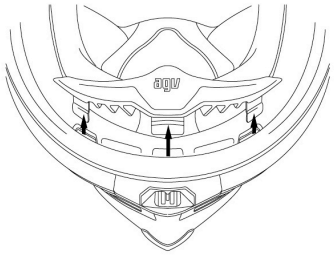


Fig. 26

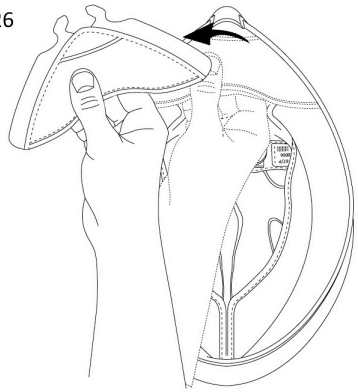


Fig. 27

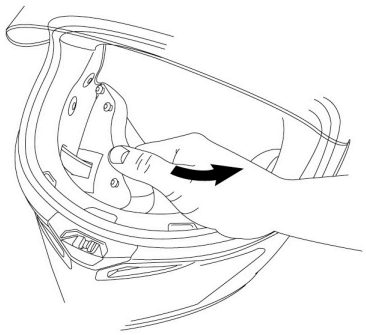


Fig. 28

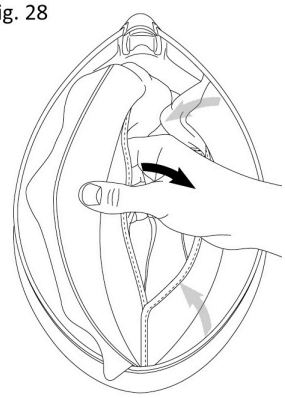


Fig. 29

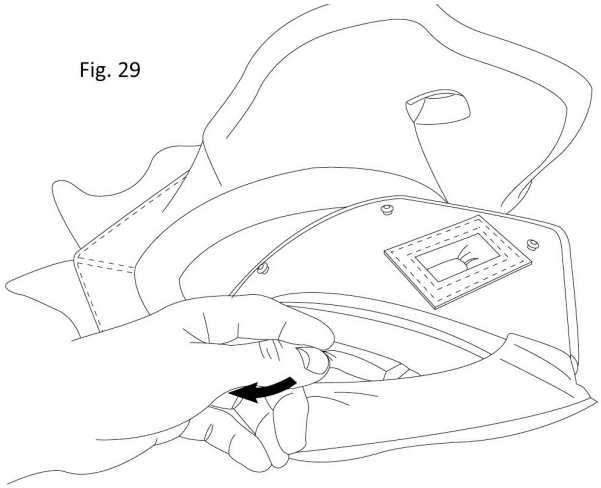


Fig. 30

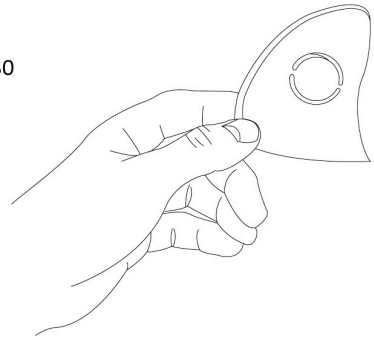


Fig. 31

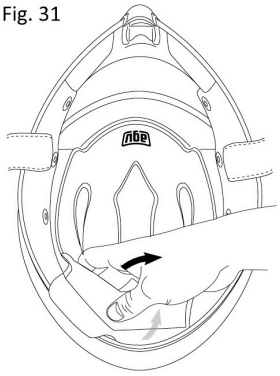


Fig. 32

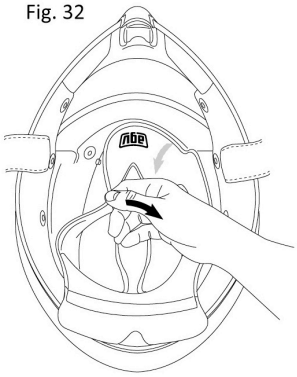


Fig. 33

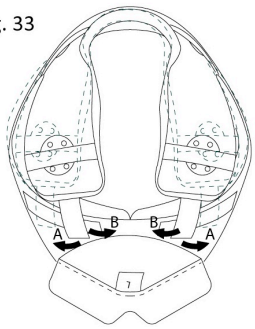


Fig. 35

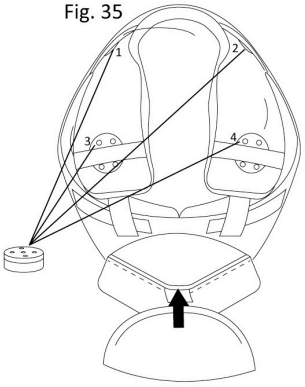


Fig. 34

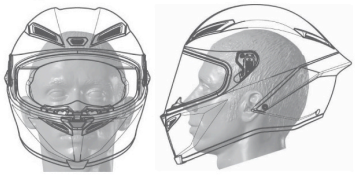


Fig. 36

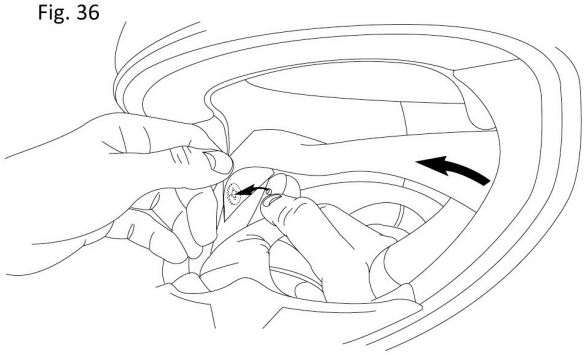


Fig. 37

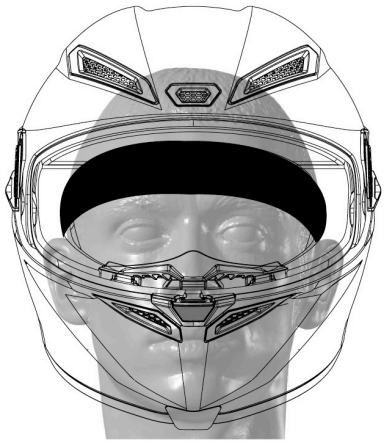


Fig. 38

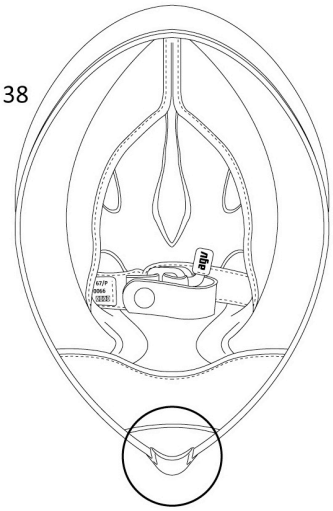


Fig. 39

Fig. 40

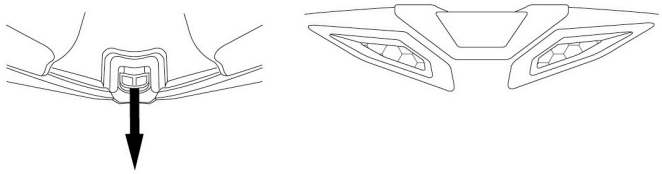


Fig. 41

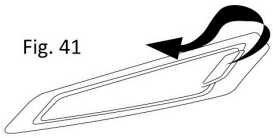


Fig. 42

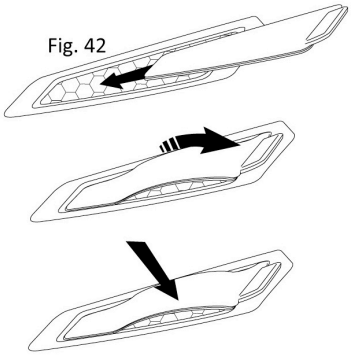


Fig. 43

Fig. 44

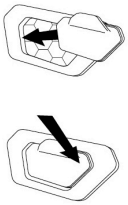


Fig. 45

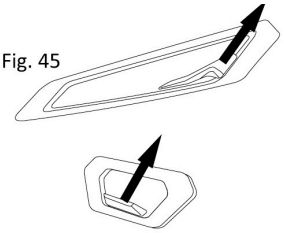


Fig. 46

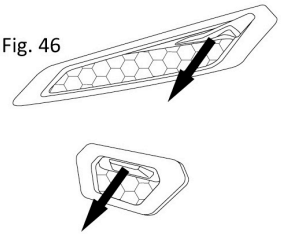


Fig. 47

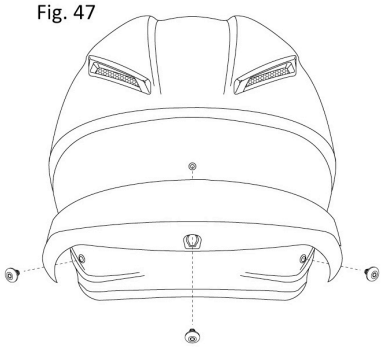


Fig. 48 **PISTA GP**

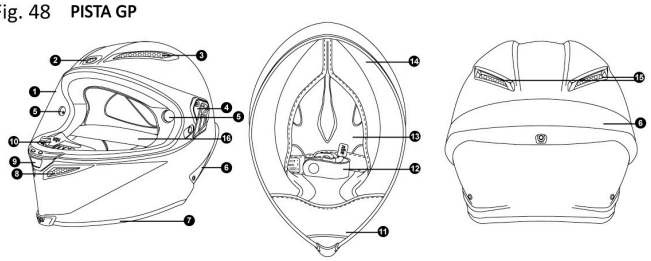


Fig. 49 **CORSA**

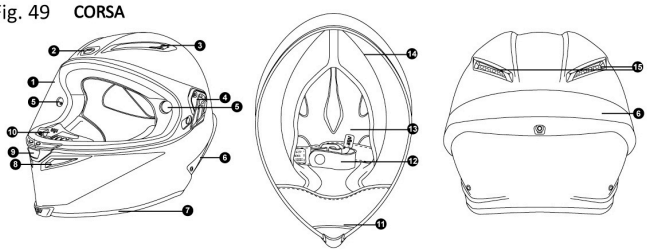
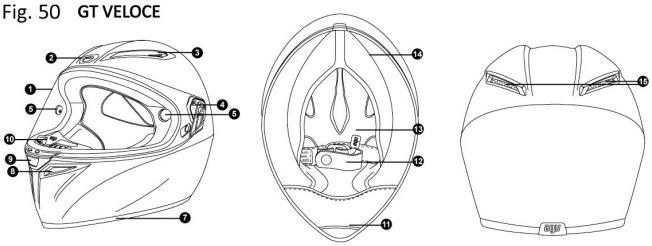


Fig. 50 **GT VELOCE**



AGV S.p.A.
Strada Savonesa, 12
15057 Rivalta Scrivia (AL)
Italy
Tel. +39 0131/853011
Fax +39 0131/853090
www.agv.com - info@agv.it

100% recycled pape
100% carta riciclata